

みまや小だより

教育目標
やさしい子
かしこい子
たくましい子

いわき市立御厩小学校長 鈴木 英直

第2学期の体験・経験

5年生－9月4・5日、いわき海浜自然の家にて宿泊活動
1年生－9月10日、常磐消防署・アクアマリンふくしまへの見学学習
4年生－9月10日、コミュタン福島への環境の見学学習
5年生－9月10日、日産自動車いわき工場への見学学習
2年生－9月12日、いわき総合図書館、いわき駅から湯本駅まで常磐線に乗って、ほるるへの
見学学習

6年生－9月12日、東京方面（国会議事堂・TOKYO-DOME-CITY）への修学旅行
様々な「体験・経験」「学び」をすることができました。この「体験・経験」「学び」を今後の生活や授業に生かして欲しいと思います。「体験・経験は生かし方次第で自分の武器になる」ですね。

ご理解とご協力に感謝

- 10月18日（土）PTA奉仕作業
校舎の窓拭きを中心に作業をしていただきました。
- 10月21日（火）市内の先生方の研修のための授業公開
1年生～6年生とみまや学級の7学級で授業公開を行いました。
- 10月22日（水）新1年生のための就学時健康診断
5年生にお手伝いをいただき、4月に入学するお子さんの就学時健康診断が行われました。
- 10月28日（火）給食試食会（2・4・6年生の保護者）
「いわきの学校給食における地産地消」のDVDの視聴、実際に子どもたちが食する給食の試食が行われました。

※校舎内の清掃や下校時刻の変更、お弁当づくりなど様々な面でのご理解とご協力に感謝いたします。

子どもの困り感

困り感とは、子どもが「困ったな」「どうしよう」と心の中で感じている気持ちのことです。外から見える困った行動とは違って、その子の内側で感じている戸惑いや苦しさなんです。子どもを支えるためには、この気持ちを理解することが第一歩になります。

- 1 困り感って何？
困り感という言葉は、比較的新しい言葉で、「その子自身が感じている困った気持ち」を表します。文部科学省の調査（2012）でも使われるようになった言葉です。困り感は目に見えない子どもの声だということです。行動で問題が見えても、その奥にある「困った気持ち」を理解しないと、本当の支援にはならないのです。
- 2 困り感と困った行動の違い
困り感と外から見える困った行動は、視点が違います。
子ども本人が感じた内側の気持ちが、言葉にならないことが多い。その行動を周りの大人（親・先生など）がどのように見えるかになってきます。
例えば、宿題をやらない子がいたとします。周りの大人からは「困った行動」に見えますが、その子の内側では「どこから手をつければいいかわからない」という困り感があるかもしれません。この違いを理解することが大切です。
- 3 困り感を理解することの大切さ
○こどもに合った助け方が見つかる
○二次的な問題（不登校や自己否定など）を防げる
○こどもが自分を好きになるきっかけになる
○どんな環境が必要かがわかる
- 4 発達障がいがある子どもの困り感の特徴
発達障がいのある子どもの困り感には、こんな特徴があります。
○自分の困った気持ちを言葉にするのが難しい
○なぜ困っているのか、自分でもわからないことがある
○周りとの「ズレ」を感じるが多い
○場所や状況によって困り感の強さが変わる

5 様々な困り感

○勉強での困り感

- ・読み書きの困り感
- ・文字を読むのに時間がかかる
- ・似た漢字の区別が難しい
- ・書くのが遅くて、ノートがとれない
- ・計算の困り感
- ・暗算が難しい
- ・数字の並びや位取りがわかりにくい
- ・図形のイメージがつかみにくい

※勉強での困り感も「できない子」と決めつけるのではなく、その子に合った方法を見つけられれば、大きく改善することが多いです。例えば、「読む」のが難しくても「聞く」ことで理解できる子がたくさんいます。

○生活での困り感

- ・片付けの難しさ：物の管理ができず、必要なものを見つけられない
- ・時間の感覚の難しさ：時間の流れがつかめず、約束の時間に間に合わない
- ・身の回りのことの難しさ：着替えや身だしなみを整えるのに時間がかかる

※こうした困り感は、「怠けている」「やる気がない」と誤解されがちですが、実は脳の働き方の特性からくるものであることが多いです。

○友達関係での困り感

- ・暗黙のルールがわからない
- ・どのくらい距離をとればいいのかわからない
- ・みんなと一緒に活動するのが難しい
- ・冗談や皮肉がわからない
- ・友達関係の困り感を抱えるこどもは「友達を作りたくない」のではなく、「どうやって友達を作ればいいのかわからない」ことが多いということです。

○こんな困り感も

- ・注意の維持：長い時間集中できない、気が散りやすい
- ・記憶の保持：指示を覚えておけない、複数のことを同時にできない
- ・計画立案：手順を考えて行動できない、段取りが苦手
- ・感情や行動のコントロール：衝動的に行動してしまう、感情の調整が難しい。

6 困り感への対応方法

○子どもを支援する方法

困り感への対応は、環境を調整することと、その子に合った方法を組み合わせることが効果的です。子ども自身が自分の特性を理解できるよう支えながら、家庭や学校での具体的な工夫をすることが大切です。

○環境を調整する

環境調整は困り感を軽減する基本的な方法です。

- ・場所の調整：刺激の少ない勉強スペースの確保、座る位置の工夫
- ・時間の調整：予定を見える化する、タイマーを活用する
- ・人の関わり方の調整：適切な声かけ方の工夫、周りの大人の連携

※環境調整は「特別なこと」ではなく「誰にとっても過ごしやすい環境づくり」という視点で行うと、周りの理解も得やすいということです。クラス全体のためになる配慮として取り入れると、より自然な支援になります。

○考え方や対処法を学ぶ

- ・人との関わり方を練習する
- ・自分の状態を確認する方法を身につける
- ・問題の解決方法を学ぶ
- ・考え方の幅を広げる

※困り感があっても「対処法」を知っていれば、自信を持って生活をすることができますし、「できない」ではなく「違うやり方ならできる」という発想の転換が大切です。

次回は、具体的な対処法について記載したいと思います。